

## 事故を考える

工学的な事故解析から考える交通安全  
「自転車の乗員が気を付けるべきこと」  
上山 勝氏（「交通安全教育」2017年4月号）

はじめに

これは（一財）日本交通安全教育普及協会が発行している「交通安全教育」誌から内容を抜粋したものである。筆者は、NPO法人交通事故解析士認定協会理事長である。

### ■ 自転車の交通違反

何年のデータなのかははっきりしないが、警視庁の調査報告によると、走行台数 166,549 台の自転車のうち、違反台数は 12.0% だったそうである。その内訳は、信号無視 42.2%、イヤホン等の使用 42.2%、車道の右側通行 7.8%、携帯電話の使用 3.7%、二人乗り 3.0%、遮断踏切への立ち入り 1.1% であった。信号無視とイヤホン等の使用が異常に多いのには驚く。

### ■ 自転車の一時停止違反による事故

信号無視の中には、一時停止規制違反も含まれていると思われる。本資料では、警視庁が公表している映像をもとに一連のCGシミュレーション画像による解説がなされているが、白黒写真で印刷が不鮮明で分かりづらいし、著作権の問題もあろうかと思うので、当文書においては、上から見た図を作成して説明する。

塀のある住宅街において、優先道路を乗用車が減速しながら交差点に進入したが、同じく交差点に進入しつつある自転車を発見し、ブレーキを踏んだが停車できずにはねてしまった。

このような一時停止違反のように、直前に相手車を視認できないことや、乗用車の運転手は、相手車側は規制に従って走行しているものと判断することによって大事故になりやすい。

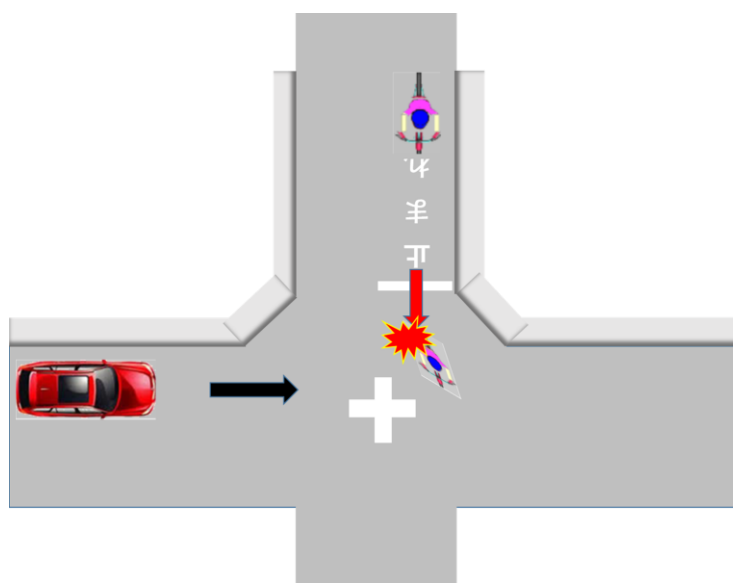


図 1 塀で囲まれた住宅街の交差点における出会い頭事故

■ 自転車のタイヤ幅に起因する不安全

細い2本のタイヤ60kgもの体重がかかるわけだが、このタイヤの細さが弱点となっている。ホームセンターの鉄柵のレール溝にはまる可能性がある。また、交差点では歩道と車道が縁石で分けられているが、夜間は縁石の隅切り部分がよく見えず、前輪をこの部分に引っ掛けてしまうことがある(図2)。タイヤが細いゆえに、簡単に転倒してしまうことがあるので気を付けなければならない。

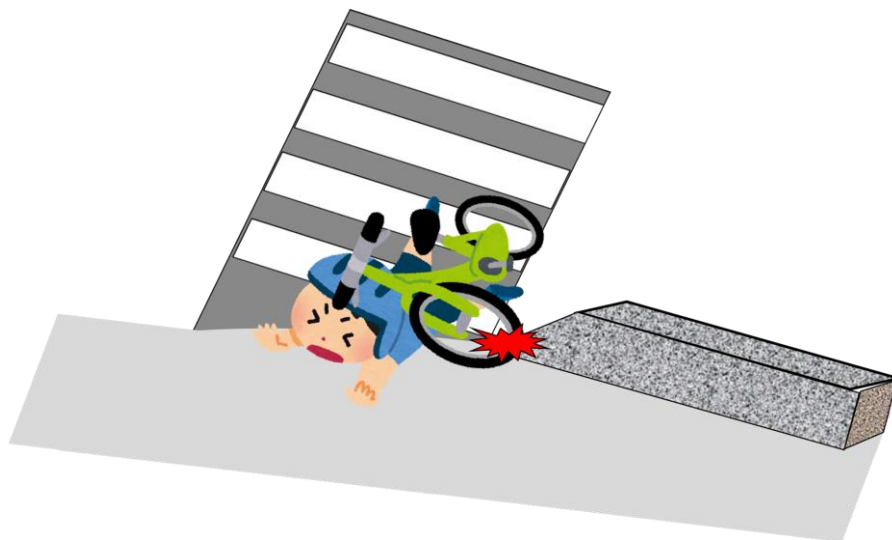


図2 縁石の隅切り部分に前輪を引っ掛けての転倒

おわりに

自転車の場合「運転者」と呼ばずに「乗員」と呼ぶようである。自転車は転倒した場合の保護装置が全くないので、乗員としては特に安全運転に心がける必要がある。

以上

(記述：村川、挿図：浅原)